

5 その他の事例 ～座薬使用後の確認～

発生時の状況と経過

1分を超えるてんかん発作が1時間に2回あり、指示書に従い、看護師がダイアップ坐薬6mgを挿肛した。

下校前に排便のためおむつ交換をすると、坐薬がほぼ原形のまま便内に出ていた。

発生時の対応と処置

迎えに来た保護者に再挿肛について伺うと、帰宅するため再挿肛しないことになり、下校した。

考えられる原因や背景

挿肛後、看護師は2～3分間坐薬が出ないよう肛門部を押さえていたが、排便と一緒に坐薬が排出されていた。5分後には坐薬が排出されていないか確認するべきだった。

再発防止に向けた対策・改善点

- ・坐薬挿肛後、5分後には担任・看護師と一緒に排出されていないか確認をし、その後も時間をおいて複数回確認する。
- ・排便のタイミングなど(出やすい日だったなど)担任との情報の共有をする。
- ・今回、坐薬挿肛すると便が出やすくなると保護者から聞いた。坐薬が排出された場合には、時間・量(性状)を確認し、再挿肛が必要なのかを保護者に確認する。

ポイント！

○肛門括約筋の内部まで挿入しないと、一旦入れたものが押し出されることは多く経験されます。手袋をして肛門の奥まで指の第1関節まで挿入すると確実です。